

1 研究主題について

意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成

～楽しい授業・わかる授業を通して～

2 研究の成果と概要

(1) 研究主題の設定理由

急激に変化する社会において、今後ますます国際化が進展し、国際的な相互依存が深まることが予想される。様々な情報媒体の発達により、世界中の情報を瞬時に得ることができる今、英語は国際的共通語としての役割も大きく、英語によってより多くの人々との交流が可能になる。2020年の東京オリンピックを見据え、小学校における英語教育の拡充強化、中学校における英語教育の高度化を目指した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」(文部科学省)が出され、今後英語教育の担う役割はますます大きくなっていく。国際社会に貢献していくためにも、将来にわたり、英語学習に意欲的にとりくむ児童・生徒の育成が急務であると考えます。

本地区の児童・生徒を見てみると、英語特区の小学校が半数を占め、すでに英語科として「読むこと」「書くこと」も含めた4技能の学習活動を行っている。その他の小学校でも新学習指導要領に沿った外国語活動が展開されていて、英語教育への関心が高い地域であると言える。一方、小学校では外国語活動に難しさや恥ずかしさによる抵抗感を持っている児童が、中学校では語彙力や文法知識が定着しておらず、なかなか自信を持ってコミュニケーション活動にとりくめない生徒が少なからずいるという課題もある。英語特区で学ぶ児童がいる地域だからこそ、小中連携をより一層深め、より意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成を目指していきたい。

私たちは小学校における外国語(英語)活動を通して育まれるコミュニケーション能力の素地や、中学校英語における語彙力や文法知識、教科書を読めることなどの「基礎学力」を児童・生徒に身に付けさせなければならない。このような基礎学力を身に付けさせていくためには、学習の原動力や推進力となる学習意欲を高めることが最も重要であると考えます。

そこで、外国語(英語)活動において、小学校と中学校の連携を軸に、児童・生徒が「楽しい」と感じ、「わかる」と思う授業を創造することで、学習者がより意欲的に英語学習にとりくむだろうと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の経過と今後の予定

月 日	内 容	司会・記録
5月 6日	組織決定・今年度の研究の方向性・統一授業研について	山北中
5月18日	研究の方向性(サブテーマを含む)について・小中分科会	山南中
6月 1日	事例研究① 夏季学習会の内容の決定・文献研究	塩山中・
8月 1日	夏季学習会・統一授業研①指導案検討	松里中・山梨市小
8月31日	統一授業研究(授業者:勝沼中学校 天野由梨先生)	山北中
9月28日	校種別事例研究②	勝沼中・甲州市小
11月30日	校種別事例研究③	山南中
1月11日	統一授業研② 事例研究実践報告	塩山中
2月 8日	統一授業研究(授業者:日下部小学校 藤木真里佳先生)	松里中・山梨市小
2月15日	今年度の研究の成果と課題・来年度の研究の方向性について	勝沼中・甲州市小

(3) 研究目的および研究仮説、仮説の検証方法

①研究目的

英語学習における基礎学力を児童・生徒に身に付けさせていくうえで必要となる学習意欲を高めるための指導の工夫について研究する。

②研究仮説

児童・生徒が「楽しい」と感じ、「わかる」と思う授業を創造することで、学習者がより意欲的に英語学習にとりくむだろう。

③仮説の検証方法

研究主題にせまるため、校種別、学年別に教材研究・指導法の工夫の検討と実践。指導案検討や研究授業を通して仮説の検証をする。

(4) 研究内容

- ・学習意欲についての文献研究を行う。
- ・先行研究から学ぶ。
- ・研究テーマにせまるための指導案作成と授業実践。
- ・小中連携を意識した活動の展開を検討する。
- ・小学校英語科について学ぶ。

3 研究実践

(1) 研究主題にせまるための活動の工夫

- ・ピクチャーカードの使用

- ・児童・生徒に関連した身近な話題の提供
- ・発問の工夫
- ・疑似コミュニケーション体験
- ・身近な人物，話題を使い，親しみやすさと具体性を高める。
- ・「書くこと」の自己表現活動を取り入れる。
自己紹介，有名人や友達（絵や写真を用いて）の紹介
- ・視聴覚機器を使って視覚効果を高める。

(2) 授業実践

第1学年英語科学習指導案

指導者 天野 由梨
ALT スペンサー

1. 単元名

Unit 5 学校の文化祭 NEW HORIZON English Course1 (東京書籍)

2. 単元について

Unit 5 では、Unit 3 で登場した転校生ディーパの出身国インドに焦点を当て、日本とインドのカレーの違いを中心に、各国の食文化について取り上げている。“What is...?” や “What do you...?” という言語材料は、異文化について尋ねる際に好適である。また、料理の感想を述べる場面で be 動詞の補語となる形容詞を扱うことができる。本単元の学習を通して疑問詞 What を含む疑問文を使って自分が知らないことについてたずねることができるようにさせ、Yes/No ではない応答の方法も習得させたい。また応答には形容詞を用いた文を1文足して、より深い表現を目指す。

第1時では “What is this?” の疑問文とその応答文 “It’s a(an)～.” の表現の学習をする。導入で ALT が蚊取り線香など日本独自の物について JTE に “What is this?” で質問し、JTE がその質問に対し “It’s～.” で答える。導入後、生徒たちに影絵を見せて、ALT がそれが何かを “What is this?” で質問し、生徒がその質問に対し “It’s～.” で答える活動をする。“What is this?” の文の構造と答え方を学習し、本文の内容確認と音読練習をする。最後にワークシートを用いてまとめる。

第2時である本時で扱う教科書 (Unit5 Part1) の基本文は “What is this?” “It’s a (an)～.” の表現であるが、この表現は日常的に使っていて生徒たちも分かっている表現なので、生徒たちの意欲関心を高めるため、また山梨県学力調査の “What sport do you like?” の正答率が低かったことを受けて、一段階難しい “What 名詞 do you～?” の表現を学習をする。本校では2学期から新しい ALT が着任した。本時は新しい ALT の先生との2時間目の授業である。そこで導入で JTE が本校の教員になりきり、ALT の “What 名詞 do you～?” の質問に答える形式の教員紹介を行う。生徒は JTE と ALT の会話を聞きながらどの教員について話しているか分かったら “Are you

～?”で答える。この活動で“**What** 名詞 **do you**～?”の表現を何度も聞くことでインプットを目指したい。また小学校で学習し、慣れ親しんだ表現，“**What color do you like?**”（Hi, friends! Lesson5）を最初の質問にもってくることで、より円滑に新出表現の習得ができることを期待している。また、この Q&A が本単元のまとめとなる **Who am I?**ゲームになっているので、生徒に本単元の見通しを持たせる活動となる。このインプットの活動から口頭でのアウトプット、そして1文ではあるが書く活動へと繋げたい。

第3時では形容詞を学習する。新出単語の意味の確認後、ある物について形容詞を使って説明をする。生徒たちは形容詞で説明されている物が何なのか考えながら聞く。この活動を通して形容詞は物の状態や様子を説明する働きがある言葉だと気づかせたい。導入後、導入で用いた形容詞を文字で見せ、意味と読み方を確認し、練習する。最後に学習した形容詞を使い、ペアになって班の中でこちらが指示した物の説明をし、発表するペア意外の班員が何の説明をしているか当てる活動を行う。最後の活動で使えるだろうと考えられる形容詞を聞かせたり、言わせたりすることで、最後に困らずに活用できることを目指している。最後にワークシートでまとめる。

第5時では“**What do you have for breakfast?**”の表現を学習する。導入で各国の朝食に焦点をあてることで、異文化への理解を深め、視野を広げることをねらいとしている。その後、JTEとALTの普段食べている朝食についての会話を聞かせ、普段何を朝食として食べているか聞く方法を会話の中から気づかせる。“**What do you have for breakfast?**”の質問をペアでする。その後、配布された国旗カードの国の人になりきって朝食で何を食べるか答える活動をする。最初の導入はこの活動に繋がっている。最初の導入で活動に必要な国名とその国の朝食の紹介を行い、円滑に活動を行うことを目指している。

第7時では本単元のまとめとして“**Who am I?**ゲーム”を行う。このゲームは前にも述べたように本単元の第1時でJTEとALTが行った会話とほぼ同じである。第7時の“**Who am I?**ゲーム”では**What**を含む疑問文に対し、その返答に1文足して答える活動をする。例えば **What sport do you like? --- I like soccer. + It's interesting. / What do you have for breakfast? --- I have rice. It's good.**といった答え方をさせたい。

第4, 6時では新出表現の復習と本文の内容理解を行う。授業の組み立ては基本的に各パートそれぞれ2時間、1時間目は新出表現の習得、2時間目は本文の内容理解である。新出表現の学習では口頭練習の活動を通して表現の習得を目指し、最後にワークシートを使って文の構造をまとめている。本単元でも生徒が慣れている通常のスタイルで授業を組み立てている。生徒の学習意欲を高めるための活動を多く仕組み、生徒のつまづきを最小限にするための授業の流れを大切にして授業を組み立てている。

3. 生徒の実態

(1) 生活面について

男子15名、女子12名、計27名の学級である。ハイパーQUの結果では「親和的なまとまりのある学級集団」と判定されている。男女ともに小グループはなく、どの生徒も誰とでも話をしているが、女子はおとなしい生徒が多いので、グループ活動やペア活動を行う中で自信を持って自分の意見を言えない様子が見られる。入学当初に比べると少しずつ改善されているので今後もペアワークやグループワークを多く仕組み、コミュニケーション活動を多く取り入れていきたい。

(2) 学習面について

授業には前向きに取り組んでいるので、その場ではできるが、時間をおいて復習すると忘れていく生徒が多い。アンケート結果からも多くの生徒が英語の授業に対し前向きに考えていることが分かる。しかし全く好きではないと答えた生徒もいる。特に読むことが苦手な生徒が多い。また書くことが難しいと感じている生徒が多いことも分かった。中学校1年生ということで英語科の入門期なので聞く活動と話す活動を多く授業に取り入れていたので、このような結果になったと考える。

授業以外の学習方法は半分以上の生徒が学習塾や英会話教室に通っていないため、自分で家庭学習している。学年で取り組んでいる家庭学習で英語を学習していることは多いが、学習時間は短い。よって定着が難しい。とても前向きな生徒とそうでない生徒との二極化が始まりつつあるように感じている。この結果を受けて、2学期は英語の家庭学習ノートを週に1度回収して、ノートのチェックを行い、家庭での学習が少ない生徒には個別に指導を行うなどして、家庭学習に積極的に取り組ませたい。

アンケート結果

① あなたは英語の授業がどのくらい好きですか。

とても好き	まあまあ好き	あまり好きではない	全く好きではない
9人	11人	5人	2人

② あなたは次のようなことは好きですか。

	とても好き	まあまあ好き	あまり好きではない	全く好きではない
英語を聞くこと	8人(8人)	14人(9人)	5人(3人)	0人(0人)
英語で話すこと	8人(8人)	11人(9人)	8人(3人)	0人(0人)
英語で読むこと	3人(3人)	12人(11人)	12人(6人)	0人(0人)
英語で書くこと	8人(8人)	13人(10人)	5人(2人)	1人(0人)

※ () 内の数は英語が好きと答えた生徒の数

③ あなたは平日、学校の授業以外に1日にどのくらい英語の勉強をしていますか。

ほとんどしない	15分	30分	1時間	2時間
3人(3人)	15人(5人)	9人(5人)	7人(4人)	3人(0人)

※ () 内の人数は塾や習い事に行っていない生徒の数

4. 教協研究とのかかわり

今年度の研究主題は「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～楽しい授業・わかる授業を通して～」である。本地区の児童・生徒を見てみると、英語特区の小学校が半数を占め、すでに英語科として「読むこと」「書くこと」も含めた4技能の学習活動を行っている。その他の小学校でも新学習指導要領に沿った外国語活動が展開されていて、英語教育への関心が高い地域と言える。小学校ではゲームを中心に外国語に慣れさせるための活動に取り組んできた。今年度も小中連携して研究しているので、小学校で慣れ親しんだ表現を導入で活用したり、ゲーム的要素を含ませた活動を授業に取り入れたりして、生徒が無理なく、小学校の外国語活動から中学校の英語科の学習に入れるように取り組んでいる。今後も小中連携をより一層深め、学習の原動力や推進力となる学習意欲を高めることが重要と考え、小学校と中学校の連携を軸に、児童生徒が「楽しい」と感じ、「わかる」と思う授業を創造することで、学習者をより意欲的に英語学習に取り組ませたいと考えている。

本時の授業では導入で英会話を聞きながら本校の教員の誰について話しているのか当てるゲーム的要素を含む活動を行う。ゲーム感覚で What～? の疑問文をインプットすることを目的としている。その後、何度も口頭練習をして書く活動へとつなげていく。アンケートから多くの生徒たちが書くことを難しいと感じていることが分かったので聞く(インプット)→十分な口頭練習(アウトプット)→書くというスモールステップを踏むことで、つまづきを最小限にし、「分かる」授業を目指している。そして学習した表現を活用することで、英語でコミュニケーションをとれることの「楽しさ」を感じてほしいと考え、コミュニケーション活動を最後に仕組んだ。

5. 単元の目標

- ・自分が知らないものなどについて What を使ってたずねることができる。
- ・ものの性質や状態などについて S V C (形容詞) の形を使って話すことができる。

6. 単元の評価基準

ア. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ. 外国語の表現の能力	ウ. 外国語の理解の能力	エ. 言語や文化についての知識・理解
①ペアワークやグループワークにおいて間違えることを恐れず話している。	①自分が知らないことについてたずねることができる。 ②ものの性質や状態について表現することができる。 ③Whatを含む疑問文に答えることができる。	①対話を聞いて、何について話されているかを聞き取ることができる。 ②本文の内容を理解している	①What～？の文とその答え方の形・意味・用法に関する知識を身につけている。 ②be動詞＋形容詞の形・意味・用法に関する知識を身につけている。

7. 指導と評価の計画（全7時間）

（1）学習計画

時数	○ねらい・学習内容	評価基準	評価方法
1	○本単元で身につける技能について知る。 ・導入で何だか分からない物について what を使ってたずねる会話を聞く。 ○What is this?の疑問文の構造と答え方を理解する。 ・What is this?の疑問文と答え方の口頭練習をする。 ・ワークシートを用いてまとめをする。 ○本文の内容を確認し、音読する。 ・新出単語、連語等の意味や発音を確認する。 ・本文の内容を確認する ・本文の音読をする（全体→ペア）	エの① ウの②	後日ペーパーテスト 後日ペーパーテスト
2 (本時)	○What is this?の復習をする。 ・ワークシートを用いて前時の復習をする。 ・What is this?のリスニング問題を解く。 ○What 名詞 do you～?の疑問文の文の構造を理解する。 ・What 名詞 do you～?の疑問文を聞く。 ・絵を見て口頭練習をする。 ・What 名詞 do you～?の疑問文の構造を理解する。 ・質問文を個人で作成し、ペアで質問し合う。 ・ワークシートを用いてまとめをする。	ウの① エの①	聞き取り問題 後日ペーパーテスト

3	<p>○形容詞を用いた文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語，連語等の意味や発音を確認する。 ・形容詞を含む文を聞く。 ・形容詞の提示（意味と読み方の確認） ・形容詞を使い，あるものを説明する。 ・ワークシートを用いてまとめをする。 	エの② イの②	後日ペーパー テスト 活動の観察 後日ペーパー テスト
4	<p>○本文の内容を確認し，音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形容詞を含む文のリスニング問題 ・本文の内容を確認する ・本文の音読をする（全体→個人→ペア） 	ウの① ウの②	聞き取り問題 後日ペーパー テスト
5	<p>○What do you have for ～？の疑問文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語，連語等の意味や発音を確認する。 ・世界の朝ご飯について知る ・普段食べている朝食についてALTとJTEの会話を聞く。 ・ペアでお互いへの普段の朝食について聞き合う。 ・国旗カードの配られた国の人になりきって，朝ご飯に何を食べているかを答える。（同じ国の人捜し） ・ワークシートを用いてまとめをする。 	エの① アの①	後日ペーパー テスト 活動の観察
6	<p>○本文の内容を確認し，音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What do you have for ～？の文のリスニング問題 ・本文の内容を確認する ・本文の音読をする（全体→個人→ペア） 	ウの① ウの②	聞き取り問題 後日ペーパー テスト
7	<p>○本単元のまとめをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Who am I ゲーム 各班で一人を選び，質問と応答を通して，代表者の紹介をする。 ※他の班の生徒たちは誰について話しているのか聞き，分かったらAre you～？で尋ねる ・”What sport do you like?”の質問に対する答えを英語で3文で書く。 	イの① イの③	活動の観察 後日ペーパー テスト ワークシート

8. 本時の授業 （2 / 7 時）

(1) 日時 平成28年8月31日(水) 5校時 (14:00～14:50)

(2) 場所 勝沼中学校 1年C組 教室

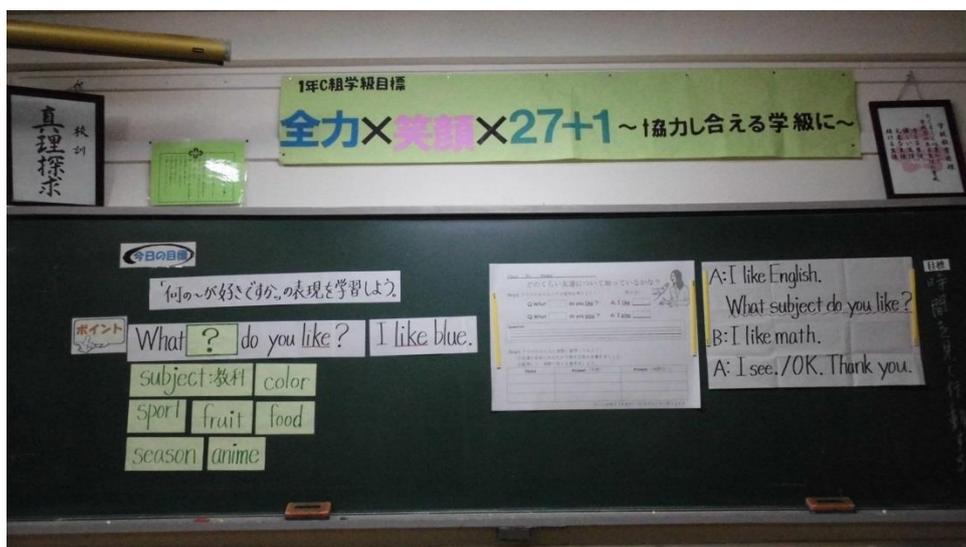
(3) 本時の目標 ・What使った疑問文で質問することができる。

(4) 展開

学習過程	生徒の活動	教師の支援	評価・指導上の留意点
1. Greetings (3min)	・あいさつをする。	・あいさつをする。	【全体】 ・雰囲気づくり
2. Review (12min)	・前時のワークシートを見て ”What is this?”の復習をする。 ・リスニング問題を解く。	・前時の学習内容を生徒が思い出せるように復習する。 ・リスニング問題を流す。	【全体】
3. Introduction (8min) 「私は誰だ？クイズ」 (勝沼中の教員)	・Whatを使った文とその応答を聞きながら答えを考える。 ・分かったら “Are you...?”で答えを聞く。	・ALT と What を使って質問をしながら、どの先生について話しているか生徒に考えさせる。 ・答えが分かったときの確認の仕方を復習する。	【全体】 ・はっきりと分かりやすく話して導入する。
ALT: What color do you like? --- Amano: I like red. What fruit do you like? --- I like peaches. What season do you like? --- I like fall.			
	・本時の見通しを持つ。	・本時の見通しを持たせる。	【全体】 ・文字で提示する。
目標 「何の～が好きですか。」の表現を学習し			
4. Practice (5min)	・絵を見てどんな質問文が合うか考え、発表する。	・絵を見せる。 ・質問文を考えさせる。	【全体】 ・分かりやすい絵を使う。
What color do you like? What sport do you play?		What subject do you like? What food do you like?	
	・What の後にどんな言葉があるか考える。	・What の後に名詞があることを気づかせる。	・What の後に続く単語を黒板に提示する。

<p>5. Activity (10min)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に聞きたい What を使った質問文を作る。 ・作った質問をペアで質問し、その質問に対し、答える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>A: I like English. What subject do you like? B: I like math. A: OK. / Oh, I see. Thank you.</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導しながら、支援を必要とする生徒に指導する。 ・今までの文から What の後ろにはどんな単語があるのか生徒に気づかせる。 ・質問の始め方と終わりを伝える。 	<p>【個人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が使えるような単語を黒板に貼る。 <p>【ペア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要と考えられる生徒の支援をする。 <p>評価 アの① 活動の観察</p>
<p>6. 活動まとめ (5min)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者が全体の前で ALT の先生に質問する。 ・他の生徒は質問の内容と返答の内容を考えながら聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT は生徒の質問に答える。 	<p>【全体】</p>
<p>7. Conclusion (5min)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを活用して本時の授業を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて本時の振り返りをする。 	<p>【全体】</p>
<p>8. Greetings (2min)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次の授業の見通しを持つ。 ・あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の授業の見通しを持たせる。 ・あいさつをする。 	<p>【全体】</p>

9. 板書計画



10. 研究討議より

①教師の働きかけ

- ・本時の目標がしっかりと掲示されていた。また授業の最初でデモンストレーションを見せることにより、生徒たちはこれから自分たちが学習することの見通しを持って授業に参加していた。
- ・コミュニケーションを意識させ、向かい合い、原稿を読まずに視線を合わせて会話をするように指導していたのは良かったが、さらに生徒が意欲的に取り組めるようなタスク、例えば「このクラスの中に数学が好きな人を3人見つけよう」があるとより良い。

②生徒の様子から

- ・本校で勤務する教員について質問を聞く場面（Who am I?ゲーム）では身近な話題で生徒たちが楽しそうだった。
- ・インタビューの活動では相手の考えを予測させることで、クイズ形式になり、生徒の集中力、聞こうとする意欲が高まった。また相手を知ろうとする人間関係作りになっていると感じた。
- ・自分が考えた質問が出来るのは、選択の欲求が満たされて意欲に繋がった。また例文がいくつか提示されているので安心して質問を考えることができ、練習もしているのでやってみようと思える。
- ・まとめで新しいALTに生徒が質問する場面が、生徒が最も生き生きしている様子だったので、今後、もっとこういう機会を増やすと良い。

③小中連携

- ・導入時に小学校で使用した教材「Hi, friends!」のページを見せたことにより、生徒たちは小学校で学習したフレーズを思い出すことができ、生徒にとって今回の表現を学習するハードルが下がったようだった。
- ・小学校で学習したことを生徒が覚えていて、スムーズに新しい表現を学習することができた。

4 成果と課題

今年度も研究主題は継続し、サブテーマに「楽しい授業・わかる授業を通して」を加えた。「楽しい授業とは」、「わかる授業とは」を常に考えながら、協働学習を行い、様々なアイデアを出し合うことができた。研究活動においては、小中に分かれての教材研究、指導法の工夫を検討し授業実践へ生かしてきた。夏季学習会では講師を招聘し、外国語研究部会でできる小中の連携の工夫・アイデアを学習した。

現在までの各小部会での研究については以下の通りである。小学校部会では、2月の授業研究に向けて指導案検討を重ねている。1・2年生部会では基本本文の導入についてアイデアを持ち寄り、授業で実践している。3年生担当では、本部会の研究主題を受け、教科書本文の内容を生徒にどのように深く理解させたらよいかを研究テーマにし、

研究を進めた。山梨大学教授の田中武夫先生の英文テキストの深い理解を促すためには読解指導において教師が発問を効果的に活用することが重要であるという考えを取り入れている。「事実発問」、「推論発問」、「評価発問」を取り入れたワークシートを共同で作成し、それぞれの学校で実践した。生徒たちがテキストを丁寧に読むようになった、テキストについて深く考えるようになったことが成果となっている。

研究授業では、小学校の「Hi, friends!」や英語活動で経験した内容をふまえ、生徒が楽しみながら意欲を持って活動に参加できるような工夫ができるよう、指導案検討をした。パワーポイントで使うイラストを「Hi, friends!」から引用し、新出の文法事項と小学校で取り扱った事項とを関連させる内容を盛り込むことができた。研究討議の中では、生徒が小学校で扱った内容を思い出すことに効果的であったという意見が出された。

研究授業の後、これまでの研究を踏まえ、学年ごとに分かれ、具体的な活動を検討し、部員がそれぞれ学習意欲を高める活動の実践を行い、その成果や課題などを部会で発表し、研究討議を行っていく予定である。部員全員が実際にテーマに沿った授業実践を行いことでさらにテーマに迫ることができるのではないかと考える。また、議論を深めることで今年度の研究を実際の児童・生徒のためになるような確かなものにしていきたい。

本年度も小中連携を意識した活動に取り組んでいる。年2回の統一授業研究では必ず小学校と中学校の授業を参観しており、今年度も2月に小学校の授業を参観する予定である。研究会では、小学校外国語活動の現状や今後の動向について情報交換をして学び合い、中学校ではどんな形で活用していけるかを検討した。互いの授業を参観するだけにとどまらず、互いの実践を活用し合うこと、今後の動向を共有しておくことで、小学校から中学校への繋がりがスムーズになるだろうと考えている。小中連携を念頭に置き、より多くの接点を意図的に作ることで、児童・生徒の学習意欲を高めていきたい。

5 研究組織および部員

- ・ 助言者 廣瀬芳樹（山梨小学校）
- ・ 部長 水上かおり（塩山中学校）
- ・ 副部長 依田 久（山梨南中学校） 加藤紀子（松里中学校）
- ・ 部員 佐藤佳奈（塩山中学校） 野沢喜満子（塩山中学校）
天野由梨（勝沼中学校） 高橋真由美（大和中学校）
古屋浩紀（山梨北中学校） 広瀬竜太（山梨北中学校）
利根川紫野（山梨北中学校） 益田宗士（山梨北中学校）
長嶋明美（山梨南中学校） 大村 隆（山梨南中学校）
小宮山公仁（塩山北小学校） 神宮司剛（神金小学校）
中村弘和（井尻小学校） 飯室 林（岩手小学校）
藤木真里佳（日下部小学校） 高野育愛（塩山南小学校）